

ブラジルにおける日本食の普及状況

在サンパウロ日本国総領事館

2022年3月3日

ブラジル農業における日本

- 日系農業者団体
 - 1910～20年代日本人移民による野菜栽培が始まる。その後、移住地に多くの農業組合が誕生。
 - 穀物、野菜、果物、畜産物等、多くの農産物の生産を行い、ブラジル農産物の多角化に貢献。
 - 様々な品種改良、効率化、防除技術の開発等を行い、ブラジル農産物の質・量の改善に貢献
- セラード開発（1979年～2001年）
 - 日伯農業協力のシンボルでもあるセラード開発により、協力成果として、農地は65%増、生産量は500%、生産性は300%増加し、現在では世界の穀物の40%を生産する世界有数の食料供給国にブラジルは変貌。
- アグロフォレストリー
 - 1970年代からパラ州トメアス日系移住地を中心に、森林再生と農業生産を両立する「森林農法」とも呼ばれるアグロフォレストリーシステムを開発し、農業経営の多角化、農業生産の持続化に成功。



日本からブラジルへの農林水産物輸出

●日本からブラジルへの農林水産品輸出額 約13億8千万円（2021年）

※財務省貿易統計 国別品別表HSコード01-24類の合計額（日本からブラジルへの輸出 2021年1月-12月累計）

輸出額上位10品目

順位	HSコード	品目名	金額（千円）	全輸出額に占める割合
①	1209.91-000	野菜の種（播種用のもの）	273,399	20%
②	2206.00-200	清酒	152,037	11%
③	2106.90-900	調整食料品	106,254	8%
④	1704.90-100	キャンデー類	94,614	7%
⑤	2103.90-200	インスタントカレー	85,130	6%
⑥	2103.90-900	ソース、ソース用の調製品	77,266	6%
⑦	0202.30-100	牛のロイン肉	57,630	4%
⑧	1604.14-900	かつお節	42,055	3%
⑨	1209.30-000	園芸用草花の種(播種用のもの)	36,745	3%
⑩	1902.30-100	インスタントラーメンその他の即席めん類	36,310	3%

資料：財務省貿易統計国別品別表 HSコード01-24類の上位10品目

上位10品目の合計金額
約9億6千万円

上位10品目の割合 70%

ブラジルにおける日本食品取扱店

サンパウロ市内リベルダージ地区を中心に、日本食を取扱う店が多数存在する

- 近年の日本食ブームにより、従来の駐在員、日系人ブラジル人だけでなく非日系ブラジル人も多く訪れる。
- 日本からの輸入食品は日本の流通価格の約3倍の値段。

● 加工食品

- 味噌、醤油、マヨネーズなどの調味料、カレールー、インスタントラーメン、菓子類等、非常に豊富。キッコマンによる現地生産の醤油、当地日系人が起業したサクラ醤油も販売されている。

● アルコール類

- 日本から輸入された日本酒、焼酎、泡盛が販売されている他、「東麒麟」等の現地生産の日本酒や、現地生産の焼酎も販売されている。
- 輸入品は高価だが、高所得のブラジル人が多く購入する。

● 和牛

- 2018年から日本産牛肉の輸入が開始。高価だが、高所得のブラジル人が多く購入する
- ブラジル産WAGYUも販売されている



ブラジルの日本食レストラン

- サンパウロ市内だけでも1000を超えるレストランが存在する
- サンパウロ市だけでなく、ブラジルの各地方都市にも日本食レストランが存在する
- 以前は、日本食と言えば寿司が中心であったが、現在はうどん、ラーメン、牛丼、居酒屋等、多くの種類の日本食がブラジルで普及している
- 非日系ブラジル人の客も多数
- ミシュランで星を獲得するレストランも
- ミシュランガイド サンパウロ・リオデジャネイロ2020において、サンパウロに所在する9軒のレストランのうち、日本食レストランが5軒を占める
- 日本食に欠かせない、味噌、醤油、お米、野菜等はかつて日系移民が持ち込み栽培を始めたものが使用されており、日本食普及の礎を担っている。



まとめ

- ▶ 日本食は、日系移民によりブラジルに持ち込まれ、長い歴史の中で発展してきた。
- ▶ 同時に、日系移民はブラジル農業の多角化や質・量の改善にも貢献。
- ▶ 近年は、日本食は日系社会のみならずブラジル社会全体に広く受け入れられている。
- ▶ ブラジルの高所得者は、「良い物」は値段を気にせず買う人も多い
- ▶ 一方、今後の更なる日本食の普及のためには、価格競争力強化が課題